

共栄・シマブン・扶和メタル提携

解説

「(経営)引があり、と長年の取

「まずは器ができた」(念など) 価値観を共有し、海外事業を始めていた。ただ、(木谷社長)——共栄・シマブン・扶和メタルの、そして3社間に「国内顧客の満足度を高め、3社が提携し、国内鉄ス頼があった」(郡社長) またコスト競争力を強化し、海外展開は得意な「と」した。提携の600億円の最大規模のグループが誕生した。提携を検討し始めたのは、今年2月ごろ。3社が提携に至った動機の一つに、「同じ危機感を共有している」(同) ことがある。少子高齢化に伴い、鉄スクラップの長期的な内需減少は避けられない。直近では関西で相次ぐ製鋼休止もあった。さらに、外需も日本産鉄スクラップの主要輸出先である中韓の自給化が予想され、新たな輸出先の確保が将来的な課題となっている。このほか、3社ともに高炉メーカー

提携3社の概要

社名	共栄	シマブン シマブン	扶和メタル
本社所在地	兵庫県神戸市中央区	兵庫県神戸市灘区	大阪府中央区
代表者	郡義信	木谷謙介	黒川友二
事業内容	製鋼原料の加工・販売、鋼材の解体・再販、建設資材の供給	製鋼原料の加工・販売、鋼材の解体・再販、建設資材の供給	製鋼原料の加工・販売、鋼材の解体・再販、建設資材の供給
資本金	4,000万円	6,550万円	1,000万円
創業	1927年12月	1909年10月	1908年6月
売上高(14年12月)	608億円	723億円	245億円

国内最大規模 売上げ3社計1600億円

輸出が可能になる。3社ともに海外事業の意欲は強く、将来的には海外で何らかの事業を展開することも考えられる。すでに扶和メタルは米国で鉄スクラップビジ

「コスト競争力」の強維持するが、提携がこの課題をいきなり解消するわけではない。また、新日鉄住金発足後、鉄鋼業界の変化は激しさを増した。鉄リサイクル業界でも、周辺では商社再編、電炉メーカーの製鋼休止があり、そして業界内ではスストックDとエンビプロHDを中心とした新たな提携グループも生まれている。この提携で3社にとっだが、1社、海外事業も含め、あらゆる選択肢が広がった。「信頼感のある3社がまとまった。次の展開は、これから検討していく」(郡社長)と、この提携がどう発展するかはまだ分からない。3社提携という「器」はできた。中身はどんなのか。今後の展開に期待したい。(宇尾野 宏之)